

小学生時代の私はどんな子供だったのか

～その2. 担任教師の評価から～

始めに

私は1940年（昭和15年）12月12日、小田原市万年四丁目556番地（現・浜町）の家で生まれました。警察官だった父は1955年（昭和30年）に死去。以後しばらくは家族5人で生家で暮らしました。生家と言うのは借家で、諸般の事情から立ち退くことになり1981年（昭和56年）11月、小田原市久野にできた新築分譲マンション「小田原サニータウン」を購入して入居しました。私のこれまでの生活の中でこれが第1回目の引越となりました。その後小田原市城山の分譲マンション、小田原市蓮正寺の介護付き有料老人ホーム、小田原市久野のサ高住と引越を計4回経験しました。庭付きの一戸建て住宅から60平方メートルの3LDKのマンション。そして賃貸マンションの25平方メートルの個室に落ち着いたわけです。家具・寝具・机・椅子・什器等は引越のたびに減って行きました。特に2022年10月に分譲マンションから介護付き有料老人ホームに移った3回目の引越の時はそれまでずっと所有していた**家財道具・書籍など一切は処分**しました。それまでの交友の証しであった手紙・写真なども全て捨ててしまったのです。こうして4度の引越の結果、私の手元には昔の**思い出を想起させる写真や手紙などはほとんど残っておりません**。ただ、私は同年代の諸兄姉と比べるとかなり早い時期からパソコンに興味を持ち、親しんできたおかげで写真や書類を何枚かは**スキャナーで取り込んでデジタルデータ**として残しています。

6年間の通知票を保存

1947年（昭和22年）4月、小田原市立城内小学校に入学しました。同時期に入学した児童は男女合わせて300名ほどいたのではないのでしょうか？1組から5組まであり、大体一クラスは50名～60名。私は4組に配属されました。4年生になる時にクラス替えがありましたが私は4組のままでした。**1年生から5年生までのクラス担任は女性教師**でしたが、6年生の時だけは男性教師が担任になりました。当時の児童の学習成績や生活態度、行動状況などは「**通信簿**」「**通知票**」と呼ばれるものに記録されて、学年ごとに児童に手渡されました。科目ごとの成績が「まさる」「ふつう」「おとる」「優」「良」「可」などで評価され、その児童の性質、交友関係、などへの担任教師の感想などが細かく記されています。私は**1年生から6年生までの「通信簿」「通知票」をすべて所有、保存**しています。1年生と2年生の時のものは薄いペラペラの紙ですがまだしっかりと保存しています。**3年時の担任は相原美江子先生、4、5年時は興津静代先**

生、6年時は岩本實先生がそれぞれ当時の山本哲照という児童のことを先生の視点で記録してくれています。今、読むと小学生の私がどういう子供だったのか、友達とどういう接し方をしていたのか、友達からどう思われていたのか、学科の成績は？などがよく分ります。本稿では先生方が書き残された記述を一字一句残さず忠実にご紹介します。但し、1学年と2学年を担当された府川文子先生はメガネをかけたその辺でみかけるような「ちょっとおっかないオバサン」と言う感じの先生でしたが、文章での記述を残されませんでしたので、私をどのよう
に思っておられたのかは、今となっては知るすべもありません。

第3学年相原美江子先生の評価

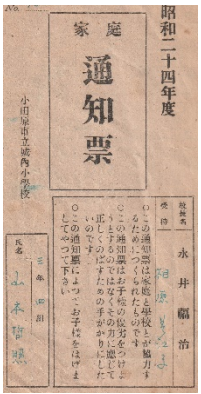
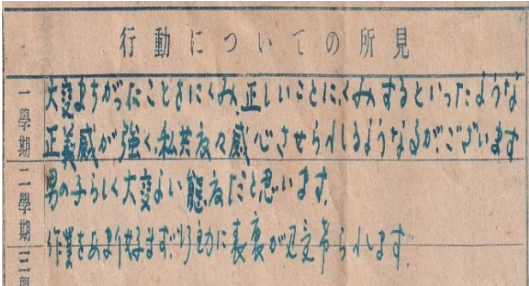
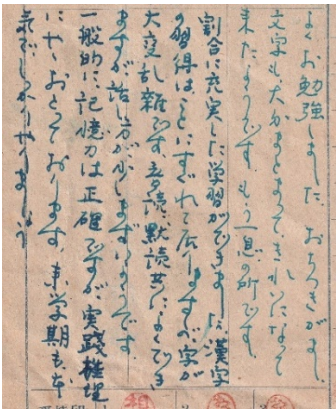
通信欄

- 1 学期 一般に記憶力は正確ですが、実践でやや劣っております。来学期も本気でしっかりやりましょう。
- 2 学期 割合にしっかりした学習ができました。漢字の習得は殊にすぐれて居りますが、字が大変乱雑です。音読、黙読共によくできますが、話し方が少しまずいようです。
- 3 学期 よくお勉強しました。おちつきが増し、文字も大分まとまってきれいになって来たようです。もう一息の所です。

行動についての所見

大変まちがったことをにくみ、正しいことに、くみするといったような正義感が強く、私共度々感心させられるような事がございます。男の子らしく大変よい態度だと思ひます。
作業をあまり好まず、行動に裏表が見受けられます。

相原美江子先生は第3学年1年間だけの担任でしたが、「綺麗でやさしい先生」として私にはとても懐かしい先生です。「行動についての所見」で私の性格を評価してくださり、とても嬉しく思ひました。読書と国語が好きになったのもこの頃からだったと思ひます。



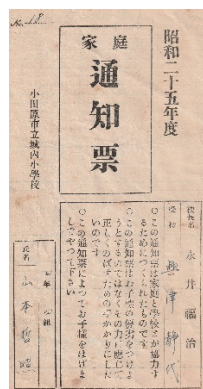
第4学年興津静代先生の評価

行動についての所見

- 1 学期 意志が強くはっきりした態度の児童であるが自己主張が強く、自分の意に逆らえばすぐ暴力に訴え、友人と争うことが多い。この点矯正中。
- 2 学期 前期の事項は非常に改まり落ち着いている。
- 3 学期 読書を好むので良書を与える事に充分留意すべきである。

自由研究（ローマ字）

研究熱心で効果が上がっている。話の中心を掴むことができる。



行動についての所見	
一学期	意志が強くはっきりした態度の児童であるが自己主張が強く自分の意に逆らえばすぐ暴力に訴え友人と争うことが多い。この点矯正中。
二学期	前期の事項は非常に改まり落ち着いている。
三学期	読書を好むので良書を与える事に充分留意すべきである。最近では暴力の振舞いは控えている。

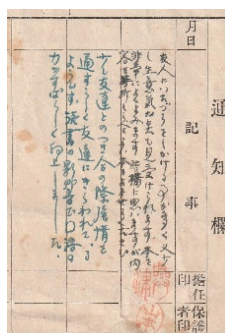
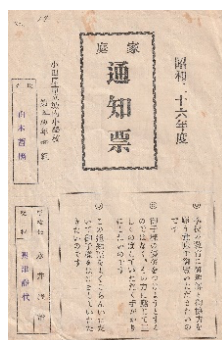
第5学年興津静代先生の評価

通知欄（記事）

友人にいたづらをしかけることが多く、又少し生意気な点も見受けられます。本を非常によく読みます。結構に思いますが内容を時折調べ、よい本を読ませてください。

少し友達との付き合いの際強情を通すらしく、友達に嫌われているようです。読書の影響で国語の力が素晴らしく向上しました。

第4学年と第5学年を担当されたのは興津静代先生。大変厳しくオッカナイ先生でした。私にはとても厳しく接して来られるように感じられ、あまりなつけない先生でした。今、改めて当時の先生が記された私への評価を読み返してみると「客観的に冷静に判断を下しているが、冷たく突き放したように感じられる」のは私だけでしょうか？



第6 学年岩本實先生の評価

通知欄（記事）

- 1 学期 粗暴な点が直らぬ限り、他のすべては第二の事であると思います。二面生活を使うようには絶対したくない。
- 2 学期 すべての面に於いて大変よくなってまいりました。うれしく思っています。裏表のない、明るい、好感の持てる人になれますよう願っています。
- 3 学期 今年度の、この一年間のこの児のあらゆる面に於いての変遷を、私は何よりも喜びたいのです。どうぞこのまま美点を伸ばし、欠点を是正して、素直に伸びていきますよう、念じております。

第6 学年の1 学期が終って渡された通知票を見て私は首をひねりました。「ン？粗暴って何だろう？」読書好きだったので、言葉の意味は分かります。ただ、自分の日頃の行動が先生には「粗暴」と評価されたのです。不本意でしたが「直して行こう」という気持ちになりました。友達から何か言われてもムキになって言い返さないようになっていき、手も出さずに我慢しました。2 学期には大分改善され、学年末には先生も認めてくださったようです。私には小学校最終学年担任の岩本實先生のこの評価が、何よりも嬉しくて励みになったのです。

No.

昭和二十七年 度

家庭 通知票

小田原市立城内小学校

第六学年 四組

氏 名 山 本 哲 照

受 持 学校長 永 井 福 治

岩 本 實

◎ 学校の教育に御理解と御協力を願う意味で御覧いただきたいのです

◎ 御子様の優秀をつけようとするのではなく、その力に応じて正しくのばしていただく手がかりにしたいのです

◎ この通知票をよくごらんいただき、御子様をばねとしていただきたいと思います

通知欄

月 日 3.22 12.23 7/19

記 事

担任保護者印

粗暴な点が直らぬ限り、他のすべては第二の事であると思います。二面生活を使うようには絶対したくない。

すべての面に於いて大へんよくなりました。うれしく思っています。裏表のない、明るい、好感の持てる人になれますよう願っています。

今年度の、この一年間のこの児のあらゆる面に於いての変遷を、私は何よりも喜びたいのです。どうぞこのまま美点を伸ばし、欠点を是正して、素直に伸びていきますよう、念じております。

以上、小学校全学年の通知票に担任の先生が記された内容をご紹介します。
各学年の文末には通知票と先生の自筆の部分をスキャナー取り込み、掲載しました。

終りに

2回に亘って「小学生時代の私はどんな子供だったのか」という駄文にお付き合いいただき、ありがとうございました。私の「与太話」は前節をもって終るはずでした。ところがこの間思いがけない展開がありましたので、それをお話しさせてください。「無着成恭と小学校の恩師」と「小学生時代の私はどんな子供だったのか」の中で岩本實先生の思い出をお話ししました。先生ご自身は既に亡くなっておられるので叶いませんが、この駄文を先生への「オマージュ」として捧げたいと思い、ご遺族を探したところ小田原市に甥御さんがおられることが分りました。この情報は6年前のものなのでご住所が変わっていないことを念じつつお手紙を差しあげました。手紙にはパソコンのアドレスも記しておいたので、そのアドレスにすぐにご返事がありました。甥御さんは見知らぬ差出人から6年前に亡くなった叔父上の授業風景を聞かされて、驚くと同時に大変喜ばれて「山本さんのこの投稿を叔父の墓に報告いたします」と言っておられました。

本稿「小学生時代の・・・その2」でも岩本先生への謝辞と当時の先生の筆跡をご紹介します。甥御さんがこの投稿も先生にお知らせくださるよう、心から願いつつ擱筆とさせていただきます。

(完)